学校運営の方針

1　教育課題

当校児童には、生活面での落ち着き、学習規律や集団行動面での節度がある。これは、教師集団によるこれまでの一貫した取組の成果である。さらに、教師が児童の話を聴き、児童理解を深めて指導・支援したり、保護者の相談に親身になって乗ったりしたことによって、児童と教師、学校と家庭との信頼関係が高まっている。

一方で、次のような課題がある。

(1)　学力の差が大きいこと、学習意欲の差が大きいこと

昨年度もＷｅｂ配信テストやＮＲＴで確かな成果が見られた。これは、個々の児童の状況に応じて指導したり、学習を反復させて定着を図ったりしたことの成果である。しかし、児童間の「学力の差が大きい」ことや、学力と相関するように「学習意欲の差が大きい」ことが課題である。したがって、魅力的な学習課題の設定と「学び合い」を重視することで、学習意欲を向上させ、剥落しない確かな知識・技能を獲得させることが課題である。

(2)　相手の気持ちやよさを認めることが少なく、自己中心的な言動があること

児童間のトラブルは減ってきている。これは、認め合う教室風土や異学年活動で自己有用感を高めてきた成果である。しかし、自分が誰かの役に立っていると感じている児童の割合は高いが、自分には良いところがあると感じる児童の割合は、大きな伸びが見られていない。これは、相手の気持ちを認めたり相手のよさを認めたりすることが少ないことが課題である。また、自己中心的な言動がトラブルに結び付いていることも課題である。

(3)　「健康・体力づくり」のための生活習慣・運動習慣の見直しが必要なこと

児童の平均的体力数値は、県平均以上が多い。これは、日常的な体育授業の工夫や行間運動等で運動に親しませてきた成果である。しかし、敏捷性や筋パワーの弱さなどに課題がある。また、生活習慣では、就寝時刻が遅くなる傾向がある。

以上を踏まえ、ふるさと紫雲寺を心の拠りどころとし、愛するふるさとや愛する人たちのために貢献しようとする気持ちをはぐくむ。

これは、新発田市の学校教育の指針「子どもが輝く新発田の教育～子どもの夢や希望をはぐくむ教育～」にもつながるものである。

2　学校経営の基本方針

学校における全ての教育活動の礎にあるものは、親和的な人間関係である。親和的な人間関係のうえに、それぞれの「知恵」と「努力」を身に付けさせていくことを根源的に目指していく。

(1)　児童が安心して生活できる学級・学校　安全な場である学級・学校

児童が安心して生活できるための基本は、いじめや不登校などの未然防止である。即時的、短期的、長期的な観点から、教育活動を推進することで、未然防止を図っていく。

また、安心して生活するためには、安全な環境が必要である。大胆な教育活動の中にも、繊細な安全への配慮が必要である。

(2)　知・徳・体のバランスのとれた児童を育成する教育活動

学力向上は、目指す子どもの姿を具現するための重要な一面ではある。しかし、

テストの点数が良ければそれで良いとしてしまったならば、子どもの総合的な資質・能力の向上は達成できない。子どもの実態を把握しながら、改善を続けていくことが重要である。

(3)　罪を憎んで　人を憎まず

学校は失敗するためにある。最初から出来るのであれば、学校に来る必要などない。何度も同じ失敗を繰り返す子どもも中には居る。当然「叱る」ことになる。「怒る」のではない。「怒る」は、フラストレーションの解消に過ぎず、「叱る」ことの先にある「ほめる」に到達しにくい。「ほめる」ところまでを想定して「叱る」のである。

(4)　対応のスピード感は誠意の表れ

問題事案が発生した場合、スピード感のある対応が、誠意の表れと感じられる場合が多い。しかし、慌てて安直な対応をすると、問題が大きくなる。的確な情報の収集と判断、スピード感のある対応が必要である。まず、管理職に相談する。

(5)　子どもは地域の宝

子どもは地域の宝であると言われる。保護者・地域住民だけでなく、教育行政、福祉関係者、医療関係者も、子どもの教育に深く関連している。ふるさと紫雲寺を心の拠りどころとし、愛するふるさとや愛する人たちのために貢献しようとする気持ちをはぐくむことが、地域の宝への道筋である。

(6)　ベクトルを揃えた教育活動を行う教師集団

年齢・性別・経験・教育観・指導技術の異なる教師集団だからこそ、できる教育活動がある。そのとき、最も重要なものが、向かう方向（ベクトル）を揃えることである。全校児童を全教師で育てるとき、全教師が同じ役割を果たすわけではない。ベクトルがそろっていれば、自ずと果たす役割が異なってくる。役割の「のりしろ」をつくれる人が重要である。

３　学校教育目標

「と　も　に　の　び　よ　う」

４　目指す学校の姿

- 児　童　　「生き生きと　学び合う学校」
- 保護者　　「信頼がもて　子どもを通わせたい学校」
- 教　師　　「意欲に満ち　働きがいのある学校」

５　目指す子どもの姿（今年度重点目標）

知育　めあてをもち　学び合い　まとめをする子

徳育　お互いを知り　よさを認め合う子

体育　運動に親しみ　生活習慣を　改善向上する子

６　目指す教職員の姿

- 子どもの声に耳を傾け、心の声を聞き取る教職員
- 日々の授業を大切にし、授業改善を通して高め合っていく教職員
- 家庭や地域との連携に努め、信頼を勝ち取る教職員

7　努力目標

(1)　知育部門

①　授業づくりを楽しむこと（厳しくも楽しい授業改善・授業改革）

授業の質の向上が第一である。教材研究・授業準備に尽力し、視点を明確にした授業改善・授業改革を図る。

新発田市授業スタンダードと関連付けた紫雲寺モデルプラン

ア　指導目標の明確化・焦点化（指導前・構想時）

イ　指導目標を達成し、児童が意欲をもつ魅力的な学習課題の設定

ウ　ねらい達成につながる教材・教具の準備

エ　「学び合い」の様々なコーディネート

オ　学習課題（めあて）に整合・正対したまとめの言語化（表現）

カ　まとめを生かして類題等に取り組ませ、習熟を図る

キ　自らの学びや学び合いの成果を自覚し、今後の方向性を考える振り返り

＊　構造的な板書と様々な場面での視覚的な支援（視覚化・可視化・動作化）

ク　家庭学習につながる、練習問題や発展課題等の提示

ケ　振り返りの記述内容からのみとり（指導後・評価時）

②　カリキュラム・マネジメント

教科等の関連を図りながら、無駄をなくし、相乗効果を高める。

③　児童にとって有益な学習環境の整備

担任の立場、分掌の立場で、いろいろなねらいをもった掲示物等の学習環境の整備を図る。

④　新発田市特有の教育活動

食とみどりのしばたっ子プラン事業の趣旨を生かした取組を推進する。

⑤　教育の動向を見据えた準備

学習指導要領の完全実施を見据え、実践しながら準備を進める。

(2)　徳育部門

①　異学年交流活動

異学年交流活動において、憧れ意識を高めるような事前指導・事後指導を行う。

②　学級づくり

めあてに向かって挑戦させる過程で、認め合い高め合う学級づくりに努める。

③　道徳教育

「人や社会とのかかわり」を当校の道徳教育の課題ととらえ、道徳教科化を受け、実践を積み重ねながら改善を図る。

④　かかわる同和教育

保護者との連携や児童理解を深めながら、「かかわる同和教育」を推進する。

⑤　生活指導

生活月目標を設定し、児童会活動等を生かした目標共有・実践・評価を行う。

児童の心に響く教師の語りを大切にする。

⑥　いじめ対応

学校いじめ防止基本方針の見直しを図り、その実効性を高めながら、いじめ・不登校の早期発見・即時対応に努める。

(3)　体育部門

①　体育授業の工夫や運動環境の整備等

体育授業の工夫や運動環境の整備等によって、運動好きな児童を育てる。

②　生活習慣の改善

保護者と連携しながら、生活習慣の改善を図る活動を推進すると共に、保健指導の工夫を図る。

睡眠をはじめ、基本的な生活習慣の改善を図る意義について、保護者への啓発を図る。

８　働き方改革を受けた学校評価の改善

働き方改革の一環として、学校評価の「目標」項目数を減らす。元来、学校評価では、学校で行われている全ての教育活動と運営活動を評価しているわけではない。したがって、学校評価の「目標」項目数を減らすことは、教育活動の質を下げるものではない。教育活動の質は確保したうえで、学校評価の「目標」項目数を減らす。このことで、処理項目数を減らし、教育活動・運営活動にさく時間の増加を狙う。

９　経営上の配慮事項

□　ボタンの掛け違いにならないように。（始業式後、子どもとの出会いに向けて）

□　電気、ガス、灯油、水道、コピー、印刷、紙。全てに節約の気持ちを。バブルの時代は、部品を落として拾おうと探す時間より、新しい部品を使った方がコストや安いと考えられていた。今は、使えるものは、骨までしゃぶるのが原則と考えられている。労働に対する価値観は、時代によって変わっていく。

□　双括型で、報告せよ。または、結論を最初に。

□　先に言えば説明　後で言えば言い訳。

□　説明すれば分かってもらえると考えるのは、浅はかである。

□　御心配をかけて、申し訳ありません。

□　首から上の怪我は、保護者に連絡して対応を決めます。

□　初期対応こそ、丁寧に。

□　クレーム対応は、相手が落ち着くまで、相手の間違いを指摘しない。

□　クレーム対応で、相手が笑っていないのに、笑うと著しく相手の気分を害する。

□　相手にとって「対応のスピード感」は、「誠意のあらわれ」である。

□　相手のためにこのような配慮をしている、と感じ取らせる。

□　お母さん、悪い話で申し訳ないです、と切り出す。

□　こびとをとばせ

□　電話は、魔物。名乗る。周りの声。特に、切り方には注意を。

□　他人と過去は変えられない。変えられるのは、自分と未来だけ。

□　子曰わく、「過ちて、改めざる、是を過ちという。」と。

□　司会は、終着駅を見据えてコントロールする。難破しそうな船や山に登るような舟には、誰も乗りたくない。

□　先を見通す。こうなったら、次はこうなる。最悪の事態も考えて、そこまで対応できるようにしておく。

□　実は、〇時には出発していなければならないので、お話はあと〇分しか聞くことができないですが、それでも良いですか？、と最初に言っておく。

□　下手の考え、休むに似たり。

□　エレベーター・ブリーフィングを考える。

□　公務員の三大原則、公平・公正・公明。